

週刊 タバコの正体

受動喫煙の被害を防ぐため、現在では公共施設、商業施設、交通機関、宿泊施設、スポーツ施設、イベント会場、病院など人の集まるところは禁煙が当たり前です。職場はもちろんのこと勤務時間内禁煙という職場もあつたり、飲食店でもその傾向は進んでいて、タバコが吸える場所はどんどんなくなってきています。そして、受動喫煙の被害の認知度があがってきているので、各家庭でも家族から「家でタバコは吸わないで」と締め出されるケースもあることでしょう。

それなのに喫煙者の数はそれほど減っていません。平成25年度の日本たばこ産業の調査によると、成人男性の3人に1人(32%)、成人女性の10人に1人(10%)が喫煙者だそうです。

では、多くの喫煙者は一体どこでタバコを吸っているのでしょうか。

そう言えば、建物の入り口で人盛りができているのをよく見かけませんか。良く見るとタバコをくわえている人や、手に持っている人たちがばかりだったりします。屋内は禁煙なので、外で吸っているわけですが、印象が良くないですよ。その横を通るのもイヤな感じがしますが、建物に入るにはそこを通らなければならないので一層迷惑な思いがします。

一方、当人たちにとって、こんな所でひそひそとタバコを吸うのは本意ではないでしょう。でもニコチン依存症のせいで、どうしてもタバコを我慢することができず、仕方なしに外で吸っているのだと思います。

万が一、君たちがニコチン依存症にかかってしまったとしたら、毎日こんな姿でタバコを吸うことになるのです。カッコ悪いですよ。でも、こうするしか仕方がないのだと思うと、かわいそうな気もします。



成人の喫煙は法律で認められていますが、だからと言って有害物質を多く含んだタバコの煙を関係のない人に吸わせてしまうのは、喫煙者本人の知識とモラルに欠ける行動だと思います。だとするとタバコは人のいない所で吸うべきで、写真の姿はもっともなのかも知れません。

でも、そもそも吸い始めない事が一番大切ですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久